

(令和6年9月10日 午後2時50分 開始)

○議員（三原 明美議員） 三原明美です。宮崎町長におかれましては、町長就任おめでとうございます。これから川南町がどのように動いていくのか、どのような施策をされるのか、とても楽しみにしております。

それでは通告書に基づき、まず、川南町の悪臭問題について質問いたします。

私は、昨年議員になってから、毎回毎回臭い問題について質問してきましたが何一つ問題解決はしていません。町長も今回の選挙で、川南町をもれなく回られたと思います。そのとき川南町の悪臭につくづく気づかれたことと思います。悪臭で体を壊され、このままではますます体が悪化すると言われて川南町を出ていかれた方がいます。

また、洗濯物が外に干せないと毎日毎日コインランドリーに通われる方がいらっやいます。コロナでもないのに「臭いからマスクが外せんとよ」と言う小学生、「悪臭のする日は御飯を食べることができない」と言われる高齢者の方、川南町のたくさんの町民の方々がこの悪臭に苦しんでおられます。町長は、この川南町の悪臭についてどのように考えますか。また、この悪臭問題についてどのように取り組んでいかれるのでしょうか。あとは質問席にていたします。

○町長（宮崎 吉敏君） 三原明美議員の質問にお答えします。

私も議会傍聴に参ったときには、毎回悪臭問題についてという質問が出ているということは認識しております。悪臭問題対策については、今まで様々な手だてが行われてきたと承知いたしております。ただ、根本的な悪臭を改善する方法、つまり科学的な方法が確立されていないのも事実だと思っております。今後はやはり悪臭というものについては、しっかりと対策を打ってまいりたいと思っております。

以上です。

詳細については、担当課からお答えいたします。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えします。

毎回、臭いの問題について御質問いただいております。毎回お答えさせていただいているんですが、役場のほうに臭いがするという電話が入ったら職員が行って、原因者と通報者と顔を合わせて、まあ、原因者のほうに何らかの対策があれば対策をしてもらうように理解をいただいているところです。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 6月の定例議会にて、課長が「悪臭問題が発生したら今後とも現地確認を行い、通報者と原因者を直接訪問の上、苦情のないよう精査して対策が必要なものにつきましては原因者に対応をお願いしていきたいと考えております」と答弁していただきました。

その流れを、この間私が相談いたしました唐瀬地区の方の例で教えてください。この方の自宅から、約五、六十メートル先に鶏舎があり、日によっては、また、時間によって吐き気がするような臭いがします。もちろん洗濯物は外には干せません。

また、鶏舎の扇風機がこの方の自宅を向いているので、扇風機が回っているときは家にいることができないくらい臭うとのこと。子供たちが遊びに来て「ああ臭い」と言って、すぐ帰っていくそうです。このような状況でしたが、このときの対応として原因者の方への指導、相談者への返答はどのようにされたのでしょうか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えいたしたいと思います。

そのときは電話をいただきまして、すぐに私も同行して鶏舎の臭いの確認をしております。明らかに鶏舎の臭いがきついということを確認できましたので、その後帰庁後、環境課の職員と産業推進課の職員と原因者のほうに赴いて、対策を取るようお願いしたところです。

以上です。

○議員（三原 明美議員） その対策は、どのようなことを言われたんですか。どのような対策をなさいたということと言われたのでしょうか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えいたします。

ちょっと詳しくは、私は指導のときには同行しておりませんが、記憶しているところでは扇風機の横の網とかが、ネットとかが剥がれている状態も見受けられたということで、そういった対策をお願いしたと聞いております。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 対策を言われて、それがちゃんと対策がされたかどうかの確認は行われましたか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えします。

直接、私は確認には行っておりません。ただ、その後、通報者の方からも報告がなかったため、対策は取られているものと認識しておりました。

以上です。

○議員（三原 明美議員） その相談者の方には、こうやって、扇風機の網なんかをきちんとするようにということは、向こうのほうの原因者のほうには言いましたよ、ということは言われましたか。相談者の方には報告はされましたか。

○環境課長（甲斐 玲君） その後は、通報者のほうには報告に行ったかというのは、ちょっと、私も記憶にありませんけども、その実際、私が同行したときには、通報者の方を訪問したけどもいらっしゃらなかったという状況でした。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 通報者の方は「1回来ただけで、後のどうやった対策なのかは一切聞いてない」ということを言われました。このときに数値は測られましたか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えします。

数値は測らなくても、明らかに臭いというものは確認できましたので、原因者のほうに指導に行ったところです。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 数値は測らなくても臭かったんですね。もし、数値は別に測らなくてもいいんですかね。普通、数値を測ると前は何か、環境課長が言われたような気がするんですけど。これは、どなたがどんな場合に測定をされる判断をするのか。もう明らかに臭いから数字なんか測らんでいいという世界なんですか。

○環境課長（甲斐 玲君） 通常ですけども、委託等をして臭気測定なんかしている業者もあるんですけども、通常は人の臭いで感知できるという測定方法を取っておりますので、その時点で臭いと判断したら、原因者のほうにすぐに行くというふうなことをやっております。

以上です。

○議員（三原 明美議員） その方は「その後の対応は何もしてもらっていない、臭いまんまだ」とおっしゃるんですよ。で、その後の経過を見ていく必要があるのではありませんか。課長、気になりますか。いかがですか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えします。

私も、環境課にきまして、何度か臭いというふうな通報があったりとか、自身でいろんなところに町内を回っているときに臭いというところがあれば、そこを数回、やっぱり月に何回か、1回2回程度は回るようにはしておりますが、その唐瀬の鶏舎につきましては、経過を追ったという事実はありません。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 川南町は悪臭があちこちでしますので、まあ大変でしょうけど、せめて通報された方や、相談された方のところは経過を見ていくべきです。そういうことが大事ではありませんか。

役場の人に相談しても何も変わらんとと言われて、相談件数が少ないのはそういうことですよ。町長のお考えはいかがでしょう。

○町長（宮崎 吉敏君） 三原議員の質問にお答えします。

やはり議員の質問等については、しっかりと最後まで当事者の方々に寄り添ったお話をすべきじゃないかなという認識は持っております。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 畜産農家の方も、好きで悪臭を出しておられるわけではないと分かっています。経済面でも川南町に貢献していただいていることも知っています。

しかし、川南町民が苦しんでいるのは確かです。私は、3月、6月の定例議会にて、悪臭対策課を設置すべきだと言ってきましたが、町長、何らかの対策を取るとおっしゃっていただきましたが、町長はこの悪臭対策課、どう考えていただけますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 悪臭については、様々な、今までテスト等も行い、その結果

が当町に生かせるかどうかということも行っています。

ただ、そのことに対して、事業者の方々が設備投資であったり、そういった手間暇等も含めて、なかなか現実に実行に移すという大きな壁もあります。まあ、そういったことも含めて、一番いい、根本的に臭いを除去するというこの手だてがあればですね、解決できることじゃないかなと。

ただ、どうしてもそこには、大きな投資等が必要になる。また、ランニングコストも事業者のほうにかかるということです。非常にここについては当事者の方々も含めて、しっかりと話し合いをしながら進めていかなくちゃいけないと思っております。

以上です。

○議長（河野 浩一議員） 児玉さん、あなたは発言権はありませんから静かにしとってください。

○議員（三原 明美議員） しっかりと話し合いをしなくちゃいけないんです。そこで、悪臭問題について話し合いをする悪臭対策協議会を設置すべきかとも考えます。たしか、私と同じようなことを6月の定例会にて同僚議員も言っていました。

畜産農家でも悪臭がしないところもありますが、鼻と口を抑えないとたまらないくらい悪臭がするところもあります。何が違うのか、どうしたらいいのか。町民と畜産農家、町外資本の畜産企業、行政、学識経験者、町議の方々など、川南町の最大の問題をぜひともいい方向へと行くように協議をしていただきたいと強く願いますが、悪臭対策協議会設置、これは、町長はどう思われますか、どう考えていただけますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 今、三原議員が提案されました協議会設置はということですが、これは、しっかりと担当課と協議しながら設置するかどうかということに関しては判断していきたいと思います。

以上です。

○議員（三原 明美議員） ぜひとも設置をお願いしたいと思います。

ところで、6月定例議会にて質問いたしました、愛媛県産業技術研究所が開発された食材菌で作られた環境浄化微生物「えひめA I－1」、微生物の力で処理を行い、水質向上、汚泥削減、消臭等の向上を測り、河川への負荷を軽減し、また、畜産農家の臭いの軽減、糞尿の堆肥化を促進し、水稻、畑作への還元を図り、循環型農業を目指すことができる「えひめA I－1」、以前、川南町でも取り組まれていたのに、なぜ止められたのか調べていただきましたでしょうか。

○環境課長（甲斐 玲君） ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、「えひめA I－1」の取組に至った経緯について御説明いたします。

この取組は、当時口蹄疫後の緊急雇用の創出の一環として取り組んだもののようでございます。畜産関連等の事業者が、雇用や委託等により、一時的にほかの事業に従事することで生活をつなぎ、畜産関連事業の回復につなげたものであったようです。このため、畜産業に由来する臭い問題の解決の一助として、試験的に取り組んだという経緯が

あるようです。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 今でも、この「えひめA I－1」に取り組まれている畜産農家の方にお話をお聞きしたのですが、この方は2011年、川南町の職員の方からお聞きし、指導を受け自分で「えひめA I－1」を作り、牛の餌に混ぜ食べさせておられるそうです。ヨーグルトなどが入っているので牛の腸にいいのか臭いがしないそうです。たまに「えひめA I－1」を入れていないときはすごく臭うそうですので、この「えひめA I－1」のすごさをすごく感じておられます。この方は、自分で作っておられたので今も使うことができますが、一緒に始められた方は、川南町の職員さんが作ってくださったものを使用されていたので、「えひめA I－1」が中止になるとともにやめられたそうです。

また、「えひめA I－1」を浄化槽の中に1週間に1回程度入れると、浄化槽の臭いなくなってきました。そのほかに、排水ますや排水溝、風呂排水溝などの臭気も毎日少しずつ流すことで、嫌な臭気がなくなると言われています。植物の育成促進、堆肥の発酵促進にもいいそうです。

この「えひめA I－1」が商品化されていたら、川南町の臭い問題が少しは軽減されていたのかもしれないと思うと、止めた方の責任は重いと思います。川南町はもう一度、この「えひめA I－1」を勉強すべきです。町長いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 事業者の方の判断で、取り入れられた方、また、やめられた方がいらっしゃると思います。当然、その内容については、それぞれの立場で、この「えひめA I－1」と言うんですかね、このものが本当に効果が感じられた方、また、それだけの経費をかけてもしっかりと自分のところの事業が賄っていける難しい判断じゃなかったかなと思います。今現在では、私も「えひめA I－1」については認識が足りませんけど、多分、ある期間の中で販売等が行われているんじゃないかと認識しております。

以上です。

○議員（三原 明美議員） ぜひともこれを「えひめA I－1」と言います。勉強していただきたいと思います。

「町民の皆様が幸せで安心して暮らせる高齢者も若者も夢や希望を持ち、川南町に生まれ育ってよかったなと誇れる魅力あふれるまちづくりを進めていく」と町長はおっしゃっておられますので、ぜひ、どこよりも住みよい川南町にさせていただくために、町長は職員の皆様とともに、この悪臭問題について、悪臭から町民を守るために最善を尽くしていただきたいと思います。

次の質問に行きます。次は、川南町の教育、公営塾設置について質問いたします。

私は、昨年12月、今年の3月、6月の定例議会にて、公営塾設置について質問してまいりました。12月の定例議会にて、教育課長から、現在、中学3年生が川南の公営塾で90%くらいが勉強している。とても好評で無料と答弁をいただいたので、好評ならもっ

と広げて小学生からしてはどうか、小学4年生頃からだんだんと難しくなり、塾通いとなるのではないか。

しかし、残念なことに川南町にはあまり塾がない、それに分からなくなると登校拒否の原因の一つになるのでは。また、塾代も高く三、四万と聞く、兄弟がいればその倍となる、そこで自治体が運営する営利を目的としない公営塾設置をして、しっかりと学力をつけさせて行ける学校ではなく行きたい学校に行けるようにしてあげてはどうか、経済の格差が教育の格差になってはいけない、と言ってきました。

町長が言うておられます人口減少、少子高齢化については喫緊の課題、安心して子供を産み育てられる充実した支援に努め、若者の定住を促進と言われておられますが、この公営塾設置、町長はどういったお考えを持っておられますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 公営塾については、国光原中学校のPTAの方から非常にいい取組だというお言葉をいただきました。川南中におきましては、中学3年生を対象に公営塾の取組を行っております。毎週水曜日に英語及び数学を隔週で行い、令和6年度は生徒の約87%が参加しております。受験を控えた中学3年生の支援ができており、現在の取組について大変評価をしております。

ただ、もう一方では、今現在この事業を行っているということは、民間の塾の方が先生にお願いして行っているという、承知しています。ですから、義務教育である中学校、小学校がどこまでの範囲でできるかというのは、ある意味では限られているんじゃないのかな、そういうふうに捉えております。ただ、事業そのものは非常に好ましいと感じています。

以上です。

○議員（三原 明美議員） とてもいい取組だと思います。

しかし、中学校3年生になっては遅いというところも多分あると思います。そこで、私たちは10月末に、文教産業常任委員会でこの公営塾の視察で、東京の狛江市へ視察研修に伺う予定です。狛江市では、校長先生の児童生徒の多様な家庭環境が影響して学力の二極化が進んでいる、学習の遅れは不登校にもなりかねず、学習遅滞の児童生徒の底上げが喫緊の課題の問題提起に対して、すぐに動かれた学校運営協議会委員から、今、放課後の子供たちの学習環境を整える学習サポートプロジェクトを進めています。すると校長先生より、自習場所の提供だけでなく教えてくださるボランティア募集はできないのかの提起に、委員より「大学生に声をかけましょう」、こうやって学校と学校運営協議会委員との話し合いから生まれた放課後学習教室、主にどこが動かれたのか、予算が発生しているのか、ボランティア募集はどのようにされたのか、この放課後学習教室設置により学力向上はどのように変化したのか、川南町に導入できないかなど、しっかりと視察研修させていただき、12月の定例議会にて改めて質問させていただきます。ぜひ、川南の子供たちの未来に学力に希望を持たせていただきたいと思います。町長、今後、公営塾設置について御検討ください。

次に行きます。次は、防災行政無線の活用について質問いたします。

防災行政無線は、県及び市町村が地域防災計画に基づき、それぞれの地域における防災応急救助、災害復旧に関する業務に使用することを主な目的とする、また、近年の大規模災害の発生を教訓として、防災行政無線にはこれまで以上に多様化、行動化する通信ニーズの対応が要求されるとともに、平常時における有効活用における有効活用を図るために、さらなる改善が求められています。

先月の8月8日に日向灘沖で発生した地震、川南町では震度4でした。河野知事が8月16日に、県民に対して出されているメッセージによると、家具類の転倒防止をはじめ、建物の耐震化や避難場所、避難経路の確認、必要な物資の備蓄など地震への備えを再確認していただくようお願いしたいとおっしゃっております。

6月定例議会で、私が、避難場所、備蓄のことなど防災行政無線を活用してはどうかの質問をさせていただいたとき、総務課長が地域地域で防災・減災に関する防災の情報は流していないというのが現状と答弁いただきましたが、なぜ流されていないのか、また、今後はどのように考えていただけるのか、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 防災行政無線の活用については、これまでも議員から、避難場所の周知や備蓄品の備えを促すなどの防災情報を流してみても、との御意見をいただいています。防災行政無線の運用については管理運用規定に放送の範囲が示されていますので、放送範囲内での情報として避難場所、備蓄品の備えについてなど防災に関する必要な項目について、防災行政無線での周知を図っていきたいと考えています。

町長からの行政報告等については、これまで同様、広報紙や町のホームページなどを通じて、町民への周知を図っていきたいと考えています。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 町民の皆様を災害から守るということから情報提供は必須ですので、防災行政無線の活用をいま一度お考えください。

また、防災無線の入りが悪く、せっかくつけていただいたが役に立っていないと言われる町民の方がおられます。このことは把握されていますか。

○総務課長（小嶋 哲也君） 防災無線の入りの悪いお宅があるということでもありますけれども、そういった方がもしいらっしゃれば、こちらの災害対策室のほうに連絡いただければ対応したいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議員（三原 明美議員） はい、分かりました。

それと7月19日に、総務省の総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課重要無線室課長の渡辺克也課長と、吉野哲也課長補佐とZoomにて防災行政無線について、いろいろとお聞きしたのですが、防災行政無線は平常時には一般行政事務に使用できるとのこと。川南町では一般行政事務としてはどのように使われていますか。

○総務課長（小嶋 哲也君） 防災無線の一般行政事務の放送ということでもありますけれども、まあ通常、防災無線が適切に稼働するかどうかを確認するため、そういった、

必要であれば事務的な放送も流しているところであります。

以上です。

○議員（三原 明美議員） AI の声で、毎日同じ時間に行政の行事予定というのが流れていますが、あれですね。

総務省の渡辺さんに、町長が町民の皆様に防災行政無線を使いメッセージを送ることはできるのでしょうか、とお尋ねしたところ、できるとのこと。このことは御存じでしたか。

○町長（宮崎 吉敏君） ただいまの三原議員の質問に、防災無線の放送の範囲というものがあります。その中に、行政に関する重要な連絡事項、また、その他、町長が特に必要と認める事項というものが入っております。必要に応じて判断してまいりたいと思います。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 先ほども申しましたように、総務省の総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課重要無線室課長の渡辺課長ができるとおっしゃったんです。町長も、今回の選挙に当選され、これからの川南町への思い、施策のことなど、防災行政無線を使い町民の皆様に行政を報告するお考えはありますか。行政無線は「できる」です。

○町長（宮崎 吉敏君） 今の質問に対して、先ほど私が答えたことが値すると思っていますので、行政に関する重要な連絡事項、もしくは町長が特に必要と認める事項等については、しっかりとそのときに判断して利用を図っていきたいと思います。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 町民にしてみれば、できることをしない、なぜしないのか。宮崎町長がいつから町長の仕事をされているの、宮崎町長の就任挨拶を聞いていない。

また、よく言われるのが、「川南町が何をしようか分からん、議会はどう動いているのか、防災無線で聞けないのか、議会の傍聴に行きたいが仕事があり行けない」などの意見をよく耳にします。今、川南町が取り組んでいることなどを町民の皆様に防災無線を使い、町長の声で行政報告することにより、川南町の動きが町民の皆様にも分かり、町長のメッセージがよりよい川南町をつくっていくではありませんか。

総務省の渡辺様によりますと、まず、こういうことは、熊本県にあります九州総合通信局に問い合わせるといいとのこと。この防災行政無線を有効に活用することができるなら、ぜひ防災行政無線を使い行政報告をお考えください。

また、議会中継ももしできるのであれば、するといいなと思います。この防災行政無線がどこまで活用できるのか町長調べていただけますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 三原議員の質問にお答えします。

先ほど私が答えたことは、やらないと言っているわけじゃないんです。必要としたときにはやりますという答えなんです。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 今、私も先ほど言いましたように、町民は町長の生の声を望んでおりますので、ぜひともお考えください。

あとは、先ほども言いましたように熊本県のほうに問合せしてみてください。できるのかできないのか、よく考えてみてください。

次に行きます。高齢者の憩いの場、高齢者の交流の場について質問いたします。

川南町の高齢者の高齢化率は、国勢調査によると65歳以上が昭和60年には13%、平成27年には31%、令和2年には35.7%と高齢化率が進んでいますが、川南町の現在の高齢化率は何%でしょうか。

○福祉課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

令和6年度の高齢化率は37%でございます。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） この37%、この数字は、川南町の高齢化率は進んでいるほうですか。

○福祉課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

どこと比較してということかがちょっと分からないんですけど、高齢化率はかなり進んでいるほうだと思います。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 宮崎県全国平均はどれくらい分かりますか。

○福祉課長（河野 賢二君） 全国平均、宮崎県の平均ですね、ちょっと今、手元に資料がございませんので、また後ほどお答えしたいと思います。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 川南町も高齢化が進む中で、毎日お元気に過ごしていただくために町としてはどのような対策を取られていますか。

○福祉課長（河野 賢二君） 高齢者に対する対策ということでよかったですか、はい。

ただいま、高齢者の交流の場ということで町内で地域の方が行っているオレンジカフェというものであったり、地域の方が町内23か所で行っていらっしゃいます地域ふれあいであったりとか、あと、グラウンドゴルフであったりとか、いろんな活動を地域で行っていただいております。そちらを交流の場ということで総合福祉センターであったりとか、運動公園であったりとか、そういうところを利用していただいているということでございます。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 高齢者が体を動かすのはどんな効果があるのか、また、高齢者が人と関わるとどんな効果があるのか私も調べてみました。

一般的に、現役を退かれた高齢者の方々は、人と会ったりいろいろなことを考える機会が減ることから脳への刺激が少なくなると言われています。コミュニケーションはこ

うした方々の思考や感情に刺激を与え、能力や可能性を引き出す力を持っています。

また、相手の話を受け入れ寄り添うことで、安心感や満足感を与えるという効果があると言われています。また、他者との交流は健康にも影響すると考えられていて、社会的孤立は、健康リスクだけでなく死亡率を高める原因にもなりかねないと言われていて、健やか老後生活を送るためには、高齢者は交流の機会を増やしましょうと、内閣府の平成30年度版高齢社会白書にも書かれています。そこで質問ですが、そういう事業の交流に参加されている方々は、高齢者の全体の何%でしょうか。

○福祉課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

例えば、先ほど申し上げたような地域ふれあいとかそういった活動に参加されている方というのは人数を把握しておりますけど、全体的に何%かと言われると、いろんな活動もございますので、ちょっとそこまでは把握しておりません。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 7月に、川南町のあちこちで、地区の長寿会の総会が開かれていました。そのときに皆様から「遊び場を作って」のたくさんの声をお聞きしました。「川南町には、私たちみたいな高齢者の遊び場がない、百歳体操やふれあいではなく遊び場」、行政はこの高齢者の遊び場が欲しいという声は聞かれたことがありますか。

○福祉課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

私が直接、高齢の方から遊び場を作ってほしいという声は聞いておりませんが、様々なグループ等がございますので、皆さん独自で工夫されてやっていらっしゃるのかなと思っております。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 私が聞いたときは、いつでもできるカラオケ、コーヒーが飲めたり、軽い食事をする場所が欲しいと言われましたが、こういう形の交流の場所づくりを考えたことはありますか。

○福祉課長（河野 賢二君） ただいまの御質問にお答えしたいと思います。

福祉課としては、そのような場を考えたことは今のところございません。

以上でございます。

○議員（三原 明美議員） 行政も、いろいろ高齢者のために考えておられると思いますが、そこでですが、遊び場を自分たちで立ち上げてもらったらいいのではないかと思います。行政が場所の提供をして、運営は自分たちでやってもらう。もちろん、行政のサポートは必須になると思いますが、食堂だったり、喫茶店、雑貨屋、お惣菜屋、昼間のスナックに高齢者の方々のための学校など、また、ほかにもいろいろあると思います。無理をしないできる範囲で遊び場感覚で、自分たちで立ち上げていく交流の場、そしてその場所に高齢者の方だけでなく、いろんな方々が遊びに来てくれる場所づくり。

そしてもう一つが、ほかの人が立ち上げたものを利用した交流の場、福岡県にうきは市というところがあります。山に川に自然豊かな農業の町です。少子高齢化が進み疲弊

する中、笑顔で手を動かすおばあちゃんたちがボランティアではなく、きちんと報酬を得て働く、うきはの宝という会社が、ばあちゃんたちに立ち上がってもらい、平均年齢75歳以上のばあちゃんたちが2020年7月ばあちゃん食堂をオープンさせています。基本、日曜のランチだけの営業ですが、ばあちゃん食堂はお客様と直接的に触れ、ありがとうや感謝がつながり、生きがいや幸せに直結する戦略的に重要な位置づけとなっています。こういうふうに行行政の手を借りて、自分たちで運営する交流の場と、民間の会社を利用して交流の場をつくる2つの方法は、高齢者の生きがいづくりの交流の場になっていくのではないかと思いますのですが、こういうことを高齢者の方に提案されてはいかがでしょうか、町長いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 今、三原議員の質問にお答えしたいと思います。

川南町では、総合福祉センター、それから老人福祉館と、また、トロントロンドーム等の施設があると思うんですね。そういったところは、それぞれの方々、グループが有効に活用していただければなと思っております。総合福祉館については、私からの目で見ても、非常に利用者が増えているんじゃないかという認識を持っています。町としても、今ある施設を有効に町民の皆様に利用していただくということに関しては、積極的に進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（三原 明美議員） 生きがいのある生活は、きっと健康寿命を延ばします。いい方法はないか、いま一度考えてみてください。

また、もう一つ多かったのが、「子供たちの声が聞こえると元気が出る、そういうところがあるといいねえ」といった御意見もありました。子ども食堂と高齢者が一緒に交流できる場所づくり、宿題を一緒にしたり、本を読んだり、地域の力を利用した公営塾につながっていくのではないかと思います。子供たちとの交流もとても大事ではありませんか。口で言うのは簡単ですが、ぜひ、考えていただきたいと思います。今まで、この川南町を支えてくださった高齢者の方々の願い、遊び場をぜひ御検討していただきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

（ 午後3時35分 終了 ）

※ 翌日、福祉課長、環境課長の答弁あり